



## AIはすべてを変える

マーティン・フォード 著 / 松本剛史 訳

日本経済新聞出版  
2750円 / 368ページ

### Profile

#### Martin Ford

フューチャリスト。米シリコンバレーを拠点とするソフトウェア開発会社創業者。人工知能が社会に及ぼす影響に関するTED Talkは300万回以上閲覧されている。著書にベストセラーとなった「ロボットの脅威」。

に置き換わることは間違いないだろう。

著者は人間に残される仕事として、次の3種類に言及している。①真に創造的なタイプの仕事、②他人と複雑な人間関係を作ることが必要な仕事、③高い機動性、器用さ、問題解決スキルが求められる仕事、である。

とくに②と③の例として看護師やコンサルタント、コネの多い弁護士が挙げられている点が興味深い。

どうやら、あらかじめ形式化できない、文字とおり人間臭い仕事、AIも最後まで苦手なのかもしれない。

本書は、AIの進展により、近い将来ロボットが人間を支配するのではないかとといった不安を覚える読者にとって、精神安定剤となる1冊だ。

## 「変える」とすればAGI ただし、実現はかなり先

評者・スクウェア代表 黒須豊

タイトルと第1章「迫りくる創造的破壊」からは、AI（人工知能）が人類

にとっていかに危険であるかを示す書という印象を受ける。事実、そのような記述もあるのだが、むしろ著者は、かなりの紙幅を割いて、現在のAIが直面する限界を解説する。ディープラーニングが進化したといっても、いわゆるAGI（汎用人工知能）実現へのハードルはかなり高い。

AGIと現在のAIを比べ

ると、後者が対応できる知識分野は極めて限定的なのだ。例えば、AIの囲碁や将棋のソフトウェアが、プロ棋士に完勝できるようになっても、分野が異なるクロスワードパズルでは、それがどんなに簡単な内容であっても、解答することができない。

他方、AGIとは、人間のよう幅広い課題に対応する能力を持つもので、人間よりも素早く深い解答を出すことが期待されている。AGIこ

そ多くの人々が想像している本来のAIだろう。だとすれば、AGI以前のAIが自らの意思で人類に反逆し、地球を征服するなどということは起こりえない。では、AGIの実現は可能なのか、可能ならばいつなのだろうか。

著者は23人の研究者にAGIの実現時期に関するアンケートを実施している。

実現する年として挙げられた最も早い年は2020年と、最も遅い年は2029年と、回答はかなりの長期間に分散している。評者が23人の回答結果を分析したところ、中央値2093年、平均値209

### 目次 AIはすべてを変える

- 第1章 迫りくる創造的破壊
- 第2章 AIは第二の電気となる
- 第3章 「誇張」されるAI——リアルな現状
- 第4章 インテリジェントマシン構築の試み
- 第5章 ディープラーニングとAIの未来
- 第6章 消えゆく雇用とAIが経済にもたらすもの
- 第7章 AI監視国家が台頭する
- 第8章 AIがはらむリスク
- 結論 AIの二つの未来